

JGGA

Japan Generic
Medicines Association

NEWS

2018年 平成30年

3月 | 119号

C O N T E N T S



トピックス

01 米国市場参入は吉と出るか



リレー随想

02 東日本大震災を経験して
トーアエイヨー株式会社 代表取締役社長 高橋 敦男



委員会活動報告

04 コード・オブ・プラクティス委員会 研修会
05 「流通改善ガイドライン説明会」について



賛助会員から

06 コーア商事株式会社



お知らせ

08 東京都パネルディスカッション
10 知的財産研究委員会主催講演会
11 日本薬学会 第138年会
12 ジェネリック医薬品啓発“新ポスター”のご紹介
13 「日本がもし1,000人の村だったら？」改訂版発行のご案内



知っ得!豆知識

14 「変更調剤」



COP便り

15 薬剤師会との共催会合の会場費負担

16 活動案内

17 編集後記

米国市場参入は吉と出るか

株式会社じほう 報道局
海老沢 岳

新薬メーカーでは海外に進出しているかが業績に大きく影響する時代が来ている。先日4月からの社長交代を発表した大日本住友製薬の例で見ると、2008年に海外の売上比率は8%だったが、現在は63%と逆転している。直近の決算発表を見ると、国内売り上げは後発医薬品の浸透によりやや厳しいが、米国市場など海外の売り上げが大きく伸長し連結では大幅増収となっている。

大日本住友に限らず大手新薬メーカーでは海外の売り上げに助けられるこうした収益構造が「あるある」となっている。

18年度薬価制度改革で新薬創出・適応外薬解消等促進加算の対象品目が絞り込まれることになり、長期収載品も薬価を大幅に下げられる。

欧州製薬団体連合会はクインタイルズIMSのデータを基に、日本の医薬品市場が今後10年間で年率1.5%のマイナス成長に入り、今回の改革でさらに市場が縮小すると予測している。新薬メーカーは海外に販路を持っているかがより問われる時代に突入する。

一方で後発品メーカーの将来はどうなるか。2年後から後発品が収載され12年経過した製品は3価格帯から1価格帯に集約される。将来的には毎年薬価改定が導入され今以上に薬価の引き下げが行われるだろう。国内市場の展望は厳しい。

こうした国内市場を見てか、日医工は16年に、沢井製薬は17年にそれぞれ米国後発品メーカーを買収し、米国市場に参入している。

日医工が発表した17年4～12月期連結決算によると、国内後発品の売り上げは微増だったが、買収した米セーセント社が新たに売り上げに加わったことで、連結の売上高は前年同期比22.0%増だった。

沢井製薬も国内は微増だったが、買収した米アップシャー・スミス・ラボラトリーズ社の売上高が加算され、連結の売上高は15.0%増だった。

2社とも買収したメーカーの売り上げが連結に加わったため大幅増収となるのは想定内だ。連結入り後の2年目、3年目の業績はどうなるのか。自社の製品を米国で着実に売り上げることはできるのか、買収にかかった資金の償還はいつごろになるのか興味は尽きない。

また海外進出していない多くの国内メーカーはどう生き残りをかけてどう取り組むのか。こうした視点でも業界取材を進めていきたい。



東日本大震災を経験して

トーアエイヨー株式会社
代表取締役社長 高橋 敦男



私どもの会社は、2014年に世界遺産に登録された富岡製糸場の最後の民間オーナーである片倉工業(株)が行っていた、蚕蛹からビタミンB2を抽出する研究を承継するかたちで、1943年、福島県福島市に工場を竣工し創業を開始しました。扱った成分がビタミンB2ということで“栄養”という文字を入れ、東亜栄養化学工業(株)という社名になりました。蚕蛹の高度利用研究から生まれた「ビスラーゼ」、それに続く「フラビタン」シリーズを世に送り、ビタミンB2製剤の国内トップメーカーとなりました。さらに1981年に持続性虚血性心疾患治療薬「フランドル」を発売し、循環器領域への参入をきっかけに社名を現在のトーアエイヨー(株)へ変更し、1984年には、日本で初めての全身用経皮吸収型虚血性心疾患治療薬「フランドルテープ」を発売。その後も狭心症治療用硝酸薬、抗不整脈薬、心不全治療薬等を発売し、2013年には世界初の経皮吸収型β1遮断薬「ビソノテープ」を発売しました。本格的な高齢化社会を迎えて急増する循環器疾患の患者様に必要とされる医薬品を届けることが、当社の使命と考えております。

さて、当社は、福島県福島市と宮城県大和町に工場があり、東日本大震災では両工場とも被災しました。特に、研究施設を併設した福島工場の被害が大きく、さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故も重なり、震災直後は、操業再開の目途が立たない状況でした。当社は、循環器領域という生命に直結する医薬品を製造・販売していることから、製品の安定供給が社会的使命であるという強い意志のもと、生産関連設備の復旧を最優先に取り組みました。まず、被害状況を把握した上で、電気、空調、給排水、建屋の復旧に係わる業者を確保する必要がありましたが、震災直後は、業者との連絡手段がなく、当社の設備担当社員が、素早く手分けして業者の営業所に直接出向き復旧の支援を依頼しました。ライフラインの復旧が不十分な中、長年お付き合いいただいている業者の皆さんには、医薬品の安定供給の重要性をご理解いただき、優先的に当社の復旧作業を行っていただけました。当社は、社員による復旧作業を行うとともに、工事車両への燃料の供給(地元のガソリンスタンドのご厚意で融通いただく)、工事作業員の皆さんへの食事及び宿泊施設の提供(構内にある研修用の宿泊施設を提供し、寝具は近隣にある飯坂温泉の旅



館のご厚意で貸与いただいた)など、復旧作業の遂行をサポートしました。さらに、原発事故に対する社員、作業員の安全確保、製品への影響に対するユーザーの不安に応えられるように、建屋内、屋外、水等の放射線測定を行い、影響がないことを確認し、安心、安全を担保しました。一方、倉庫に保管された製品の被害が比較的少なかったことも幸いし、3月15日から製品の出荷を再開することができました。本社では、対策本部を設置して、被災状況の把握や社員の安否確認を行うとともに、震災翌日から、全国各支店にも依頼して食料、生活用品等の支援物資を調達し、製品出荷のトラックの戻り便に支援物資を積載し、福島、仙台の両工場、仙台支店等の被災事業所へと届けていただきました。

震災直後は、いつ復旧できるか全く判らない状況でしたが、自らも被災者であった現場の社員の奮闘、本支店の支援、地元業者をはじめ関係者(中には福島工場周辺に住むOBの方もいらっしゃいました。)の皆様との協力を得て、約3週間で工場を仮復旧させ生産を再開することができました。福島の地で操業し約70年という年月の中で、地元をはじめ関係者の皆様と築いてきた信頼関係が、迅速な復旧に繋がったのだと思います。ご支援、ご協力いただいた方々に、改めて感謝申し上げます。

また、震災を通して災害時の対応を含め“備え”の大切さ学び、分析機器等の落下防止対策や福島工場内に新たに建設したユーティリティ棟、倉庫棟等にもその経験を活かしております。これからも、震災での教訓を活かしたリスクマネジメントを行い、製薬企業の大きな使命の一つである医薬品の安定的供給に努めてまいります。

最後に、2011年3月に発生した東日本大震災から既に7年となります。復興は、一步一步着実に進んでいるものの、原発事故の収束、廃炉に向けた取組みを含めまだまだ相当な時間がかかりそうです。福島が出身基盤の当社としては、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

コード・オブ・プラクティス委員会 研修会

開催日時：2018年2月22日（木）13:30～17:00

開催場所：ベルサール八重洲 3F

コード・オブ・プラクティス(COP)委員会の年間施策の一つとして、COP研修会を開催し、会員会社43社より29社から53名の皆様(コンプライアンス責任者、担当者を含む)にご参加いただきました。

COP委員会の沢井製薬 中嶋委員長及び日本ジェネリック製薬協会 伏見理事長の開会挨拶及び協会を巡る最近の動きの説明につづき、講演Iでは講師の日本製薬工業協会(製薬協)医療用医薬品製品情報概要審査会予備会議リーダー 中垣 友宏氏より、「適切な広告資材作成のための製薬協の取り組み～プロモーション用資材の適切な作成・活用の推進について～」と題した、医療用医薬品広告の製薬協の基本的な考え方について説明を頂きました。続いて講演IIではCOP委員会の東和薬品 篠原副委員長より、「公正競争規約における講演会等の開催について」と題し、本年4月の診療報酬改定を踏まえ、医療関連テーマでの講演会、説明会開催時の基本的な留意点の説明がありました。

本日の研修会より、医療用医薬品の広告資材作成に係る業界の基本的な自主ルールとその考え方、及び公正競争規約(公競規)上の診療報酬改定を含む医療関連テーマによる説明会、講演会の開催方法について各社再点検いただけたと思います。

今後はジェネリック医薬品の数量シェア80%時代を見据え、更に皆様に信頼されるジェネリック医薬品を目指し、プロモーションコード違反、公競規違反に問われないよう各社へお願い致します。

以上



中垣 友宏氏



「流通改善ガイドライン説明会」について

日 時	2018年(平成30年) 2月21日(水) 14:00 ~
場 所	八重洲ホール(東京都中央区)
講 師	山口 貴久 厚生労働省医政局経済課流通指導室長(首席流通指導官)
演 題	流通改善ガイドライン運用上の留意点

説明会内容

流通改善ガイドラインの策定背景と内容、運用上の留意点について解説

1. 流通改善ガイドライン導入に至る経緯と基本的な考え方
2. メーカーと卸売業者との関係において留意する事項
3. 卸売業者と医療機関との関係において留意する事項
4. 流通当事者間で共通して留意する事項
5. 流通の効率化と安全確保について
6. 厚生労働省による関与
7. ガイドラインの適用開始日など
8. 質疑応答

流通関連課題については、古くは流近協の場で協議されてきました。その後流改懇に場を移して協議が続けられ、近年は流改懇発の緊急提言や、骨太の方針を受けた提言、さらには医薬品産業強化総合戦略においても取り上げられています。

しかしながら、各課題の改善、また進捗は決して芳しくなく、今回新たな取組として、昨年の中医協からの要望を受ける形で、国が主導して流通改善を進める「流通改善ガイドライン」が発出されることとなりました。今まで打たれた施策において「国が主導」という文言が使われたことは無く、今回のガイドラインの発出は流通課題に対する国の意気込みがそれだけ大きいことの証左と思われます。

本ガイドラインは本年4月1日より適用開始となります。それに先立ちJGAではジェネリック業界向けに厚生労働省医政局経済課による説明会を開催していただくことにしました。協会からは約60名の流通担当者が出席し、質疑応答でも熱心なやりとりが行われたりと、単なる聴講に留まらない説明会となりました。

流通適正化委員会としても、診療報酬・介護報酬の同時改定により大きく市場環境が変化していく節目において、流通課題に取り組んでいくための有意義な勉強の場となりました。





コア商事株式会社

日本ジェネリック製薬協会の皆様、こんにちは。ジェネリック医薬品原薬輸入専門商社のコア商事です。「賛助会員から」には今回で7回目の寄稿となります。

私どもはコア商事ホールディングスグループの一員であり、当グループの経営理念は「ジェネリックのベストパートナー」です。

この企業理念の目的とするところは、コア商事では、お客様に対して薬機法に従う優良な医薬品原薬を安定供給することであり、グループ内他社においては、お客様に対して薬機法に従う優良な医薬品等を供給することです。

グループ各社が各々の特性を生かしてシナジー効果をあげ、原薬輸入販売だけでなく、製品販売、受託製造などあらゆる切り口からジェネリックメーカー様のベストパートナーとなるべく日々活動しております。

ところで、皆様におかれましては、いわゆる『2025年問題』はすでによくご承知のことと思います。2025年には「人口の5人に1人が75歳以上、3人に1人が65歳以上」になると言われますと、私どもも、あらためて恐れを感じずにはられません。日本の人口は2004年をピークにすでに減り始めており、全体では減っているのに75歳以上の人達だけは逆に増え続けているのです。

このような「超」超高齢社会ともいべき時を前にして、ジェネリック医薬品メーカー様の役割はますます重要性を増し、ジェネリック医薬品メーカー様のベストパートナーを標榜するコア商事もまたますますお役に立っていかねばならないと気持ちを引き締めているところです。

それでは、コア商事がお役に立てるのはどういう点か、今後更に力を入れていくべき点は何か、あらためて考えてみますと、それはやはりジェネリック医薬品の原薬に特化した専門商社であり、商社機能を核としながらも、ノウハウを持った専門部隊が、原薬の情報提供、薬機法対応、GMPサポートといった業務を一手にサポートし、周辺業務やアフターサポートも手がけ、柔軟で広範なサービスをご提供していることです。

コア商事は、専門商社として、ヨーロッパ、インド、中国、韓国など世界19カ国、95社の原薬サプライヤーと強固な関係を築いております。

DMF国内管理人 110品目(2017年6月期実績)

外国製造業者認定申請代理 49製造所(2017年6月期実績)

原薬取引品目数 180品目(2017年6月期実績)



ノウハウを持った専門部隊として、横浜と大阪の2ヶ所に医薬分析センターと自社倉庫を持っております。医薬分析センターと自社倉庫では2018年1月末現在、全従業員の47%にあたる35名ほどが勤務しており、品質保証部門の人員も併せますと、全従業員の70%強にあたる人員が、営業および開発チームをバックアップするべく、原薬の品質試験、開発試験、原薬の情報提供、薬機法対応、GMPサポートといった業務を遂行しております。

さらに大学の研究機関と連携して原薬の品質改良にあたる「SIセンター」という名称の研究施設も保有しております。

SIセンターでは、品質に問題がある既存原薬の品質改善法を構築し、原薬サプライヤーに技術提供しています。このことで、安価で原薬をご提供できる原薬サプライヤーを選定し、品質改善を行なっても薬価改訂に対応できる原薬をご提供できます。

品質改善においては特許専門チームと連携し、特許を回避した特許満了後の製法や新たな製造プロセスを原薬サプライヤーに提供しています。

SIセンターは、これまで神奈川県相模原市にある「SIC さがみはら産業創造センター」内で研究活動を行っておりましたが、2月末から名称はそのままで、横浜にあるコア商事の本社からも医薬分析センターからも10分ほどの距離にあるグループ会社の敷地内に移り、よりスムーズなコミュニケーションのもとで活動してまいります。

コア商事を選んでいただくことが、優良な原薬を安定確実に調達する近道であると実感していただけることを目標に、さらに努めてまいりますので、引き続き皆様からのご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

東京都パネルディスカッション

～ジェネリック医薬品シェア80%達成に向けた課題と解決策～

日 時	平成30年 2月18日(日) 12:30 ～ 15:00 (12:00開場)
入 場	無料
場 所	ベルサール新宿セントラルパーク

プログラム



開 会

共催者挨拶 厚生労働省医政局経済課長 三浦 明



第一部

各パネリストからの問題提起、事例紹介と総合討論



第二部

フロアからの質疑応答

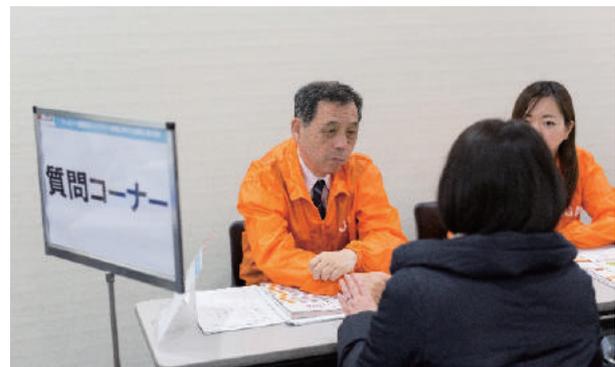
出演

- 座長 永田 泰造 先生 (公益社団法人 東京都薬剤師会副会長)
- パネリスト 渡部 芳徳 先生 (医療法人社団 慈泉会市ヶ谷ひもろぎクリニック理事長)
高松 登 先生 (公益社団法人 東京都薬剤師会常務理事、
一般社団法人 中野区薬剤師会会長)
金内 幸子 先生 (公益財団法人 東京都医療保健協会 練馬総合病院 薬剤科科長)
元田 勝人 先生 (全国健康保険協会 東京支部支部長)



概要

東京都を対象とした今回のパネルディスカッションは、主に医療現場の医師・歯科医師・薬剤師の先生方に、ジェネリック医薬品に関する最新かつ正確な情報・知識等をお伝えし、さまざまな疑問や不安を解決していただくために開催され、198名の先生方にご参加いただきました。また、併設されたジェネリック医薬品に関する質問コーナーにも8名の先生方にご利用いただきました。



※本パネルディスカッションの様子は、3月下旬に読売新聞において採録記事広告として、掲載を予定しております。

パネルディスカッション第2弾開催決定

開催日：2018年6月17日(日)

場 所：イイノホール(東京都千代田区内幸町2丁目1-1)

※詳細については、後日、JGAニュース紙面に掲載予定です。

知的財産研究委員会主催講演会

日 時	2018年(平成30年)3月22日(木)14:30 ~ 16:45
場 所	ベルサール八重洲 3F ROOM 4
講 演	演題「パテントリンケージについて(仮題)」 演者 東京丸の内法律事務所 弁護士 篠原 勝美 先生

日本薬学会 第138年会

【薬剤師向け／展示】

日 時	2018年(平成30年)3月26日(月)～28日(水)
場 所	石川県立音楽堂
趣 旨	<p>「次世代に向けた創薬・医療イノベーションの今」をテーマに開催される本学会は、難病の克服・治療を目指して日々開発される様々な創薬・薬物治療・医療の革新的技術を中心に、薬学関連研究の最前線と将来展望について議論し、情報を共有することを目的としています。</p> <p>当協会はブースを出展し、ジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、ジェネリック医薬品情報提供システムのご紹介、当協会の取り組みなどの説明をいたします。</p>

ジェネリック医薬品啓発“新ポスター”のご紹介 「ふたりの医療費を、ひとりで支える時代に。」

本ポスターでは、このまま医療費が増え続けた場合に“将来起こり得る可能性のひとつ”をイラストで表現しています。

より多くの皆様に、ジェネリック医薬品を使用する“社会的な意義”をお伝えし、選択の参考にしていただきたいとの想いで作成いたしました。医療機関をはじめ、一般の皆様の日にも届く場所で掲示させていただき予定です。JGAニュースをご覧の皆様にも、ぜひ、ご活用いただけますと幸いです。



ポスターサイズ
全3種類：A2、A3、B2

資料請求ページ

<http://www.jga.gr.jp/general/request-list.html>

「日本がもし1,000人の村だったら？」 改訂版発行のご案内

日本を1,000人の村に置き換えて、分かり易く国民皆保険制度の現状について説明した啓発資料、「日本がもし1,000人の村だったら？」を改訂し、2月に発刊いたしました。

2017年に就任された、全国健康保険協会の安藤伸樹理事長のご寄稿文「ジェネリック医薬品使用促進～協会けんぽの取り組み～」も掲載されておりますので、ぜひご一読ください。



資料請求ページ

<http://www.jga.gr.jp/general/request-list.html>



ジェネリック医薬品への変更調剤

ジェネリック医薬品の使用促進策のひとつとして、薬剤師による“変更調剤”があります。

処方医より「変更不可」の指示が処方箋になれば、処方箋を受理した保険薬局の薬剤師は、患者さまに対してジェネリック医薬品に関する説明をし、同意を得ることを条件に、処方箋に記載された医薬品をジェネリック医薬品へ変更して調剤することが可能です。

変更調剤の例

例として先発医薬品からジェネリック医薬品への変更を記載しますが、処方箋に記載されたジェネリック医薬品を他のジェネリック医薬品へ変更することもできます。

① 同一含量・同一剤形のジェネリック医薬品への変更

例) [先発] ○○錠5mg 1錠 ⇒ [後発] △△錠5mg「××」1錠

② 含量規格が異なるジェネリック医薬品への変更

例) [先発] ○○錠5mg 1錠 ⇒ [後発] △△錠2.5mg「××」2錠
[先発] ○○錠5mg 1錠 ⇒ [後発] △△錠10mg「××」0.5錠

③ 類似する別剤形のジェネリック医薬品への変更 (内服薬、下表同枠の範囲内でのみ変更可)

例) [先発] ○○錠5mg 1錠 ⇒ [後発] △△OD錠5mg「××」1錠

類似する別剤形の医薬品分類
錠剤(普通錠), 錠剤(口腔内崩壊錠), カプセル剤, 丸剤
散剤, 顆粒剤, 細粒剤, 末剤, ドライシロップ剤(内服用固形剤として調剤する場合に限る)
液剤, シロップ剤, ドライシロップ剤(内服用液剤として調剤する場合に限る)

ただし、②含量規格が異なるジェネリック医薬品、③類似する別剤形のジェネリック医薬品への変更は、変更調剤後の薬剤料が変更前と比較して同額以下の場合にしか認められていません。また、含量規格や剤形の違いにより効能・効果や用法・用量が異なる場合には対象外となりますので注意が必要です。「効能効果、用法用量等に違いのある後発医薬品リスト」は、日本ジェネリック製薬協会のホームページから確認することができます。

<http://www.jga.gr.jp/medical/confirm-effective/>

なお、一般名処方された医薬品については、その成分を同一量含有する同じ剤形の医薬品であれば、先発医薬品、ジェネリック医薬品にかかわらず調剤することができます。また、処方薬の近傍に「含量規格変更不可」または「剤形変更不可」の記載等がなければ、含量規格が異なるジェネリック医薬品、類似する別剤形のジェネリック医薬品への変更調剤も可能です(条件等は前述参照)。

薬剤師会との共催会合の会場費負担



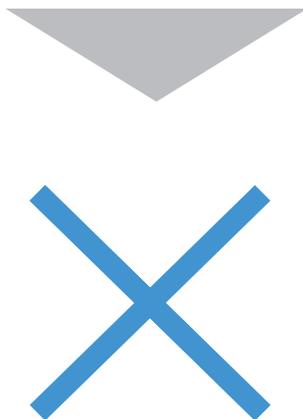
当社はA薬剤師会と共催で講演会を企画しています。

演題は自社医薬品の関連テーマとなるよう企画段階から打合せを実施しています。

開催日は、先生方が集まりやすい薬剤師会総会と同じ日に決定しました。講演会開始は15時からですが、13時からの総会に講演会場を提供します。会場使用料は1時間1万円で13時から18時まで借りて5万円です。会場費は全て当社で負担してもよいでしょうか。



回答



薬剤師会総会に係わる会場費は負担できません。

薬剤師会総会に係わる費用を負担することは、本来の講演会開催費用の負担額を超える過剰な支払いとなります。



日誌

2月	1日	薬価委員会(幹事会)	東京八重洲ホール会議室
	1日	薬価委員会運営委員会	〃
	2日	倫理委員会(臨時会議)	日本ジェネリック製薬協会会議室
	5日	総務委員会広報部会ニュース・原稿グループ会議	〃
	6日	総務委員会総務部会	〃
	13日	総務委員会広報部会イベント・講演グループ会議	〃
	14日	総務委員会広報部会コミュニケーション広報戦略グループ会議	〃
	15日	理事会	新大阪ワシントンホテルプラザ
	21日	薬制委員会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
	21日	流通適正化委員会(全体説明会)	東京八重洲ホール会議室
	22日	COP委員会研修会	ベルサール八重洲会議室
	23日	環境委員会	東京八重洲ホール会議室
	23日	薬価委員会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
	26日	総務委員会広報部会(幹事会)	〃
	27日	安全性委員会(幹事会)	メルパルク大阪
	28日	薬事関連委員連絡会	東京八重洲ホール会議室

今月の予定

3月	2日	コンプライアンス研修会	ベルサール八重洲会議室
	5日	総務委員会広報部会ニュース・原稿グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
	13日	総務委員会総務部会	〃
	14日	総務委員会広報部会イベント・講演グループ会議	〃
	15日	くすり相談委員会	東京八重洲ホール会議室
	16日	薬制委員会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
	16日	薬制委員会全体会議	ベルサール八重洲会議室
	16日	製剤研究会全体会議	〃
	16日	薬制委員会・製剤研究会合同講演会	〃
	16日	総務委員会広報部会コミュニケーション広報戦略グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
	19日	倫理委員会	〃
	20日	理事会・臨時総会	ベルサール八重洲会議室
	22日	安全性委員会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
	22日	安全性委員会全体会議	東京八重洲ホール会議室
	22日	知的財産研究委員会講演会	ベルサール八重洲会議室
	26日	信頼性向上プロジェクト(MR 教育研修検討チーム)	日本ジェネリック製薬協会会議室
	27日	薬事関連委員連絡会	東京八重洲ホール会議室
	27日	信頼性向上プロジェクト常任委員会	〃
	29日	COP委員会	富山県民会館会議室
	30日	薬価委員会(幹事会)	東京八重洲ホール会議室
30日	薬価委員会全体会議	〃	



「幸せは感謝の気持ちから」

一つの興味深い記事に出会った。それは昨年、国連が「世界幸福デー」に定めている3月20日に、「世界幸福度ランキング」を発表したという記事である。2017年版のランキングにおいて、日本は155カ国中51位となっている。予想以上に日本が低い結果を知り、単純に国の豊かさがランキングに比例するものではないことを知った。日本のランキングが低い要因までは特に調べはしなかったが、自身に当てはめて考えた時、私は幸せだと感じた。その理由について過去を振り返ると、感謝の気持ちにあるのではないかと考えた。

20代のころ、ある部署に配属となり目の前の仕事に追われていた時期があった。当時は多忙なことに對して「自分は不幸だが、一番大変な仕事をしている」と根拠のない考えを持つようになり、自分自身を正当化していた。そのため、周りが全く見えておらず、例えば顧客との面談や上司との同行訪問は、当たり前のことといった考えがどこかにあった。しかしながら、このような考え方からの仕事は長くは続かず、やがて行き詰り、塞ぎ込んでしまった。そのような時にある上司から、「周りに感謝しながら仕事しているか？相手を尊重しているか？」と言葉をいただいた。

この言葉より、これまでの行動を一つずつ振り返った結果、私は見ている世界が大きく変わった。先程、例に出した顧客との面談や上司との同行訪問については、その方が時間を割いて私に面談や指導をしていただくことが、どれだけ貴重なことかを考えるようになった。メールや会話一つにしても、御礼の言葉や配慮が加わるようになった。それは、私自身が常に周りに支えられていることに気づき、心の底から感謝の気持ちを持つようになったことが理由として考えられる。上司の言葉に救われ、これまでいただいた支援に対して恩返しをしたいと考えた。数年後、別の勤務地に配属となったが、そこでは周囲への目配り気配りを意識するだけでなく、前の勤務地で得られた情報や経験も積極的に共有して、全体で盛り上げていくことに尽力した。目配り気配りに関しては、未だ完璧に配慮ができていないとは考えておらず、今後も意識して高めていきたいと考えている。

冒頭で紹介した記事の見出しは、「あなたは今幸せですか？と聞かれたら？」というものである。この見出しに対して、私は迷わず「はい、幸せです。」と答えることができる。これからも、私は感謝の気持ちを持ち続け、周りからの支援に対して恩返しができるよう行動したいと考える。

(M.K)